

TENTI TODAY (受信メール)			1
会員の広場			3
随想	英会話の楽しみ(16) 気になる重要単語いろいろ	伊那 闊歩	3
論考	中国人から見た日本人の言語表現理(23) 言い切りを避けてほかす心理-その2-	愈 彭年	7
随想	小金井市の散歩事情 —その2—	臺 一郎	8
回顧	国立慕情(1)	津田 孚人	10
事務局			

TENTI TODAY

4月を迎え、気分一新というところですが、新型コロナウイルスの恐怖はますます増大、一層の注意が必要となって来ました。新学期、新年度と新しいスタートを迎えた若人は本当に気の毒です。

このような時にこそ、経験豊富なシニアとして、胸の内にある意見、論考、経験談など、世に吐露したいものです。残り短い機会ですが、ぜひお寄せください。

ウイルス感染のリスクを考えると在宅中心が一番望ましいのですが、健康を維持することが一番のウイルス対策と考えています。健康維持には、食事、睡眠に加えて、体を動かすこと、知的な刺激を得ることも大切と思い、早稲田大学のオープンカレッジの対面講座が新年度から再開したので、毎週月曜日、1講座だけ受講することにしました。電車、バスに乗って出かけますが、東京にこないでください、という小池東京都知事の発言もあり、いつまで続けられるのか、気懸りです。

講座は、森原隆教授の<「ヨーロッパ」とはなにか、ヨーロッパを考える>を選びました。ヨーロッパ中心の世界が、米中の覇権争いの時代に変わり、先行き予想が難しい。今後、米中以外の国々がどのように対処していくのか興味と心配がある。その中で過去の栄光を背負っていたヨーロッパの動きが一番注目される。この辺が講座を選んだ動機です。現代のヨーロッパ系民族の大半はインド=ヨーロッパ語族に属し、属さない民族は、ユダヤ人、バスク人、そしてジプシーくらい、民族主義はヨーロッパが最初、さらに、あのフランシスコ・ザビエルもイグナティウス・ロヨラも少数民族のバスク人だった、等々、教科書的知識しかないものにとっては、新鮮な話です。

体力の低下が著しく悩んでいます。半年前までは、歩くことにかんしては長くても問題ありませんでしたが、最近は息切れし、階段、上り坂は、自然と避ける状態です。巣ごもりで運動が足りないのか、老化による自然現象なのか、結論が出ません。

< 受信メール >

林英一さん

517号ありがとうございました。コロナがこれほど長居するとは思いませんでした。箸を逆さにしても効果はありませんし、豆で退散してくれませんでしたしワクチンを食わせて満腹にしてサヨナラしてもらおう外はなさそうです。政府も自棄のヤンパチの様ですので自粛して自衛するしかないのでしょうか。それにしてもいつも天地の仕事をご苦労様です。お手伝いせず楽しんでいきますので心苦しいですが。

ところで先日、朝日新聞の声欄でワクチン接種の意見募集の記事を見ましたので初めて投稿したのですが幸い編集者の目に留まり3月24日(水)に拙文が掲載されます。ご笑覧ください。《3月20日》

< 3月24日、朝日新聞朝刊、「声」欄に掲載された林さんの文章 >

「労働者ら優先し巡回車導入も」

医療従事者に続き、4月から65歳以上の人に対し、新型コロナ発症防止に有効なワクチン接種が始まります。対象者の私は接種の優先順位にためらいを感じています。ワクチンの確保が十分でない中、外出や他人との接触機会が少ない元気な高齢者らを、一律に優先対象にする必要があるのか疑問なのです。

65歳以下でも基礎疾患や障害がある方や、社会を回すために必要な職業の方、他人と接触しないといけない職業の方、在宅勤務ができない方、交通機関や警察、消防を担う方々、公私で休めない子育て中の片親などを、元気な高齢者より優先すべきだと考えます。

また医療機関や公的施設など指定会場へ、個々が出向く方式では接種できない方が発生しかねません。朝は早く帰宅も遅い人や高齢者のために、献血車や検診車、コロナ禍で需要がない観光バスなども活用して、駅や学校周辺に配備したり巡回させたりすれば、接種の機会や場も増えるでしょう。

井上茂樹さん

津田さん 早稲田のオープンカレッジ、希望する講座の日程調整が出来ず、今回はパスします。多摩大学(寺島実郎学長の現代世界解析講座)は人数制限がありますがほぼ平常に戻りましたので申し込みしました。日本が三流国になっているのは寺島さんの口癖ですが本当に恐ろしい実感があります。またお目にかかるのを楽しみにしています。(3月19日)

岸均さん (在モロッコ)

津田さん、モロッコのコロナ状況はヨーロッパ程深刻でなく日本と同じ程度でしょう。小生は毎日家の周りの早歩き小1時間とカート無しゴルフ18ホールのもどちらかをや

っており健康状態は一応大丈夫です。アルガンオイル、オリーブオイル、両オイルは受注された数量は出荷されており問題ないと思います。今の問題は国境を超える人の移動です。それでも小生は年末年始に短期間だけ一時帰国しました。

第1回目のワクチン接種は既に終わり来週第2回目を予定してます。これが済めばワクチン済みの証明書取り、国外旅行も大きな障害なく実行できる筈です。

《3月21日》

小泉さん

皆様お元気でしょうか？このコロナ禍でおとなしく STAY HOME をしていましたので、今年初めての場ネタで動画を作りました。桜咲く季節で初動画とは、自分でも驚いております。例年なら30本は作っていましたが・・・。

やはり国の外交下手なののでしょうか、ワクチンも一向に進まず、首を長くして待つことになりそうですね。

「感染と ワクチン接種 どっち先？」 菅総理頼みますよ～～！
動画も歳と共に手振れが目立つようになりましたがお見逃しを(笑)

今日の我が家上空が賑やか

<https://youtu.be/yIEax22JDfE>

青梅の名桜「梅岩寺枝垂桜」

https://youtu.be/0bnDcfA9_Ok

3月28日 yaku5151 (小泉)

会員の広場

英会話の楽しみ(16)

伊那 闊歩

16. 気になる重要単語いろいろ

1. each, every

日本で出版されている英文法書には「限定詞」ということばがあまり出て来ないが英米の辞書や文法書には盛んに限定詞(determiner)という文法用語がでてくる。限定詞が名詞にかかれば、その名詞の意味や融通性を限定する — つまり限定詞なのだ。たとえば、ここに掲げた every を英和辞典で調べてみると形容詞であるが、OALD (Oxford Advanced Learner's Dictionary) を見てみると every / indef det — 不定限定詞となっていることがわかる。そこでここでも限定詞という用語を使うことにして、一方それがかかる名詞などの性質、状態、心情などを表わすものを形容詞と呼ぶことにする。

そこでまず every。every の後には数えられる名詞の単数がついて全体として単数として扱う、たとえば

Every boy in my class plays computer games. (私のクラスの男の子はみんなコンピュータゲームをする)

ここに girl が付け加わっても単数扱いで

Every boy and girl in my class likes computer games. (私のクラスの男の子も女の子もみんなコンピュータゲームが好きです)

とする。集合名詞(代名詞)につけるとときには one of をつけて、たとえば

Every one of the children is able to swim. (この子供たちはみんな泳げます)
Every one of them plays tennis.(かれらはみんなテニスをする)

となる。every day は「毎日」であるが、everyday は「毎日の」という意味で everyday life (日常生活)、everyday clothes(普段着) (*1) のように形容詞として使う。Every days とは決していわないが、every five days (五日ごとに)、every five months (years) などは日常的に使われる。ほかにも every now and then (時々)、every other day (1日おきに) every single day (毎日毎日)など成句となって多用される。everybody, everyone はどちらも「誰でも」という意味であるが、会話では everybody のほうが普通に使われるようだ。また、every one of them と書くが everyone of them とは書かない。

Not の入った否定文たとえば

Not every student speaks English. (すべての学生が英語を喋るわけではない)

は部分否定となり、全否定の場合は none を使って

None of the students speaks English. (すべての学生が英語を喋らない)

とする。

each は every と同じく不定限定詞。数えられる単数名詞の前について「それぞれの」という意味を表わす。動詞は当然単数形である:

Each student has his or her own personal computer. (どの学生もめいめい自分のパソコンをもっている)

複数名詞にかかるときには each of (= every one of) の形をとる:

Each of the rooms in the building is almost the same.(そのビルの部屋それぞれはほとんど同じだ)

Each of them has problems. (かれらそれぞれみんな問題を抱えている)

Each of us has to do our own duty. (私たちは各自それぞれの義務をはたさなければならない)

ところが一方 We each have to do our own duty.

とも言えるので、この場合、動詞は複数形になることに注意しなければならない。修飾する複数名詞(代名詞)のすぐ後ろに each がつくことも多い:

The plans each have certain advantages and disadvantages. (その計画はそれぞれ利点と欠点を持ち合わせている)

I sent the secretaries each a small present. (セクレタリーそれぞれに小さな贈り物をした)

each other と one another はどちらも同じ「お互い」という意味でよく使われる代名詞で相互代名詞と呼ばれるが、これらが文の主語になることはない。どちらかといえど each other の方が好んでよく使われるらしい:

Mari and Pierre helped each other. (マリとピエールはお互い助け合った)

Mari and Pierre talk to each other on the phone every day. (マリとピエールは毎日電話で話し合った)

Mari and Pierre are both very interested in each other's work. (マリとピエールはふたりともお互い相手の仕事にたいへん興味をもっている) というところを

Mari and Pierre are both very interested in their work. と言ってしまうとこれは、マリとピエールはふたりともそれぞれ自分自身の仕事にたいへん興味をもっている という意味になってしまうのだ。

(*1) everyday clothes は「普段着」であるが、「外出着」は street clothes. 「礼装」は formal dress, 「僕の一張羅」は my best clothes, 「彼女の晴れ着」は her Sunday best といふ She came to the party all dressed up in her Sunday best. (彼女は晴れ着で着飾ってパーティにやってきた) (E. G. サイデンステッカー、松本道弘「日米口語辞典」朝日出版社)

2. either, neither

either は限定詞として単数名詞の前について「どちらかの、どちらでも」という意味になる。neither は「どちらも～ない」という意味になる。

You can park on either side of the street. (この道路のどちら側に停めてもいいですよ)

You can park on neither side of the street. (どちら側にもとめることはできない)

I have two personal computers here. You can use either one. (パソコン2台持っているので、どちらを使ってもいいですよ)

選択をせまられた時の受け答えかたがいろいろあって、2台のパソコンのどちらにするかと訊かれて「どちらでもいい」とときには Either (of them) will do. Whichever will do (*2). 何を食いたいかと訊かれて「何でもいい」と言うときにはやはり少し丁寧に Anything is fine. などという。

肯定文では I like cats. She likes cats, too. または She also likes cats. と言うが、否定文では I don't like cats. She doesn't like cats, either. と言う。(too や either の前にコンマをつける)

She speaks either French or Italian. (彼女はフランス語かイタリア語のどちらかを話す) どちらも話さないときには She speaks neither French nor Italian. と言う。

either~or が主語になるとき、動詞は or の後の名詞に合わせる; Either you or I am right. (= Either you are right or I am.) (君か僕のどちらかが正しい) 否定文では Neither you nor I am wrong. (君も僕もまちがってはいない)

次のような文章では、neither の後の主語と動詞の順序が逆になる: I haven't been to Rome before and neither has my brother. (僕はローマに行ったことがない。僕の兄も行ったことがない) He doesn't like natto and neither do I. (彼は納豆が好きではない僕も好きではない)

either はある事を強調する時に使われる,たとえば: I know a good Italian restaurant. It's not far from here, either. (よいイタリアンレストランを知っている。ここから全然遠くないよ)

(*2) whichever は関係代名詞であるから、You can use whichever PC you like. (パソコンはどちらでも好きな方を使うことができる)。Take whichever you want. (どちらでもほしいものをとりなさい) などと言う。

3. already, yet

これらは副詞として通常は完了形とともに現れる単語であるが、米国では過去形の文章のなかにも使われる。already は肯定文で「すでに」、yet は否定文または疑問文で「もう」の意味で次のように使われる: By midday he had already climbed up the cliff to 1,000 feet. (正午までにかれはその断崖をすでに 1000 フィートも登った) I've been looking for him for years but have never seen him yet. (長年奴を追っているが、ついぞお目にかかったこともない) (シャーロック・ホームズ「赤毛組合」) “Has he arrived yet?” “He has already arrived.” “He hasn't arrived yet” (「もう着いたかね」「もう着いています」「まだ着いていません」)

already が否定文や疑問文に使われた場合、「もう終わったの?」「まさか!」という驚きを表わす: Have you finished lunch already? It's only 11 o'clock. (「もう昼たべたの。まだ 11 時よ」)

Is my pair of shoes dry yet? (僕の靴もうかわいたかな) と普通に訊くところをもう乾いたの(驚いた)というときには: Is my pair of shoes dry already? That was quick. (早いね) となる。また、君がホーキング教授と会ったかどうかまだ知らないときには: Have you met Professor Hawking yet? (ホーキング教授にあったの?) 「もうすでに会ったの?」(驚いた) いうときには Have you already met Professor Hawking? と言えば良い。一方、驚きではないが、Haven't you seen him already? は肯定的な返答を期待しているので

文意は「まだ彼に会っていないのですか。(もう会ったのでしょうか) 」となる。これを Haven't you seen him yet? と言うと「まだ彼に会っていないのですか。(当然会っておくべきなのに)」というニュアンスにもなる。これらの言い回しは話者の口調にもよるのでひたすら慣れなければならない。

いままでに(until now / then) という意味の熟語 as yet がある: As yet little is known of the causes of the new disease. (その新しい疾患の原因は今のところまるでわかっていない)

中国人から見た日本人の言語表現心理(23)

俞彭年

言語表現心理(五)

言い切りを避けてぼかす心理-その 2-

日本人は事柄の評価に対する判断を素直に表現せずよくぼかして表現する。たとえば次の例は、ある「番組モニター報告」から拾ったものだ。

「お正月に相応しい、気品のある映像、荘厳な雰囲気漂浮を漂わせる番組内容だったと思う」「映像がきれいだったのが良かったと思う」「いつも元気を与える、そんな番組だったと思う」「……何事も一生懸命やることの大切さを教えられた気がする。また彼女の周りの人々の温かさ画面を通じて伝わってきたと思う。そして田中先生というすばらしい先生がいることも今回の番組で知ることができ、とても良かったと思う」。このなかの「…と思う」がぼかしの働きをしている。

ぼかさずにストレートに表現する例もある。「お正月の朝に見合う番組だ」「……その役割を十分にわきまえた好感の持てる番組だ」「モニターでなくても見たい番組のひとつだ」「心温まる番組だった」。

日本語の断定をぼかす方法はレトリックであり、いろいろある。「そうだ」「ようだ」「らしい」「みたい」などの助動詞を使って、推定にしたり、不確定にしたり、婉曲にしたりする。

それから「…と思う」「…と思われる」「…という」「…と言われている」「…だろう」「…のだろうか」「…ののですが」「…ではないか」「…ではないだろうか」「…ではなかったか」「…とされている」「…と感じた」「…気がした」「…気がする」などの言い回しがある。

「当番組でなければ、この番組のチャンネルを合わせることは、まずなかっただろう」「再び難局に立たされる可能性もあるようだ」「完璧ではないが、成功とっていいだろう」「調査する方が得策と判断したようだ」「いまは道路施設の維持補修を主にやっているみたい」「うまいことやるところは結構ええらしい」。

さらに、「と思う」「…と思われる」「…という」「…と言われている」「…のだろうか」「…ではないか」「…かも知れない」「…とされている」「…ではないだろうか」「…ではなかったか」「…と感じた」「…気がした」「…ののですが」、などなどの言い回しもぼかす働きをする。

「それが言葉の命というもの。言語研究者の多くはそう考えているのですが」「菅の宰相。これが首相の本当のイメージなのではないか」「この文章、日本の首相は読むのだろうか。たとえ読んでも“お国のためだ、我慢しなさい”と言うのだろうか」「日本企

業の価値観、企業文化を今一度確認し、企業ブランドを確立すべきではないだろうか」「戦争による犠牲者の追悼を通じて“日本の平和と繁栄を祈る”のだという」

中国人にとって難しいのはレトリックなのか本来の意味なのかを見極めることだろう。ときには判定できず、両方が併存するような場合もあるようだ。文脈や読者の話ぶりなどで判断するしかなく、ときには判断が難しく、両方を兼ねているように思えて、これこそあいまい表現だと思わせられる。したがって日本語の翻訳で大事なものは語尾をおとなくその通りに訳さないことだ。さもないと訳文はぎこちなくなり、日本調の中国文と言われるのが落ちだ。

小金井市の散歩事情 —その2—

臺 一郎

小金井市の南部を東西に走る準幹線道路が連雀通りであることは前回触れた。この道路の南側にはすぐに国分寺崖線＝“はけ”の崖があり、崖下には湧き水や地下水の豊富な平地が広がっている。この平地にはこれも前回も紹介したように西から東に野川という中小河川が蛇行しながら流れている。この野川沿いや、ハケの崖下から湧いた地下水が流れる小川沿いには、なかなか魅力的な遊歩道や散歩道がいくつかある。

さて、良い散歩道や遊歩道のための望ましい条件の一つ、必須条件ではないのだが、には人が歩道に沿って、あるいはすぐ脇に水のきれいな河川や水路が存在することである。流れの中で魚が泳いでいるのが時折見えたり、水鳥が戯れていたたりすればなおのこと良い。京都の銀閣寺近くから南禅寺近くまで続く有名な「哲学の小径」などは、まさにこうした条件に合致する遊歩道である。

川や水路は暗渠部分以外上空が開けている。だから見通しも風通しも良い。また水の流れる音は清涼感があってそれが聞こえるだけでなんとなく気分が良くなり心が落ち着く。しかも河川を管理するのは多くの場合、市町村や都道府県なので、それらの自治体の裁量で川沿いに遊歩道や桜並木などを整備して地域住民の憩いの空間とする場合が多い。

さて“はけ”の崖の上を東西に走る連雀通りの北側に位置し、小金井市の北部を代表する散歩道や遊歩道と言え、なんとと言っても「玉川上水緑道」は外せない。この玉川上水は小金井市内だと中央線から 1Km ちょっと北側を西から東に流れていて、その両岸に歩行者用の道が整備されている。水路部分を含めて、保守管理の主体は東京都だから整備や環境保全に抜かりはない。

玉川上水は 17 世紀半ばの 1653 年に徳川幕府が、江戸市中の人口が増えて飲み水などの水需要が急増したために、特に江戸城の西側地域向けの上水を供給する水路として整備した。すなわち多摩川の中流域に位置する現在の羽村市付近で取水し、43 キロほど先の現在の新宿区四谷大城戸まで開削工事により水路を作り、一年後の 1654 年に完成させ通水したのである。

一旦ルートを決めて、少しばかり開削工事をして水を流してみたら、水路底部の水はけが良すぎて流した水が地下に染みこんで消えてしまったために、やむを得ず工事を中止して別のルートを探したなどの苦労もあったようだが、それでも着工の翌年にはできあがるという異例の早さで完成している。かなりの突貫工事だったと言えよう。

当然だが電気もポンプもない時代のことだ。水はもっぱら自然勾配で流すしかなかった。そのため玉川上水では、取水地点の羽村から終点の四谷大城戸までの43キロ、標高差90mの間を、ほぼ100mにつき21cm下がる勾配を維持することで水を流したのである。相当高度な測量技術と土木技術が必要であったに違いない。

また、この水路は江戸市民が飲む水を供給するための上水用の水路だ。よってこの上水から分水して周辺の集落や農地に水を供給することは許されても、交錯する途中の自然河川や他の水路からの水が上水に混ざり込むことは決してないように水路のルートや構造に工夫や配慮がなされたというから驚きだ。

ところで玉川上水に沿った側道は水路管理のために完成時からあったと推察されるが、流域の住民や江戸市民が散策を楽しむ遊歩道的な道として整備され利用されたのは、18世紀半ばに徳川吉宗が8代将軍となり、上水の土手に多くの桜の木を植えるよう命じてからである。

何故そのようなことを命じたかと言えば、一つは植樹した桜の木が土手に根を張れば水路の崩落が防げるだろうとの狙いや、水路に落ちる桜の花びらが水の毒を消すなどの理由からであったと言われているが、そのほかに、桜を植えることで辺り一帯が花見の名所となり、春には花見客で賑わうことを目論んだとも言われている。

このときの桜の植林は、現在の玉川上水小金井橋付近を中心に両岸とも上下6キロほどで先ずは行われ、その後も上水に沿って桜の植林が断続的に行われた結果、上水沿いの一帯は江戸を代表する桜の名所となった。なお現在小金井市の花見の中心はすぐ近くの小金井公園へと移ったが、それでも上水の両岸にはまだ多くの桜の木が残っており、春になって花が咲き誇る頃には多くの市民や市外からの花見客が満開の桜を楽しみながら歩いている。

また、桜の季節以外でも上水沿いの遊歩道は緑が多く、歩いていて気持ちが良い。しかもこの緑道は上水沿いに国分寺市や小平市、或いは逆に三鷹市や武蔵野市まで続いていることから、四季を通じていつも誰かがウォーキングやハイキングやジョギング等を楽しんでいる。

以上の他にも中央線の北側には、小金井市が管理する遊歩道がいくつかある。それらの中で僕のお気に入りには、都立小金井公園の南側フェンスに沿って東西方向に400mほど続く自然豊かな桜町遊歩道であり、もう一つは本町4丁目の住宅地のど真ん中をほぼ500mに渡って突き通し、途中から道の感じががらりと変わる遊歩道北2号線である。

それらについては次回に紹介したい。

国立慕情 (1)

津田孚人

新型コロナウイルスの感染拡大が予断を許さなくなったのと、身体的な衰えが進む心配から、二度と行かれなくなるかとの恐怖にかられて(?)、3月の桜の時に、ほぼ1年ぶりに国立へ行きました。国立駅舎の移動工事が終わり、国立の象徴であったとんがり屋根の旧JR駅舎が記念建物として残され、市民の憩いの場になっていました。下の写真は、駅前の多摩信金のあたりから見た国立駅前と、银杏書房(注:最近なくなっただけです)の前あたりから見た、大学正門方面です。



国立の地を初めて踏んだのは、桐朋中学へ入学したときの昭和25年(1950)年4月ですから、国立とのお付き合いは70年以上になります。本人にとっては思い出の地でも、国立を知らない方には、全く関係ない話ですが、当時の様子を少しでも知っていただければと思っています。

中学入学時、大学通りはただ広いだけでこぼこ道で、歩道は砂利道でした。当時はバスなどありませんでしたから、雨の日など歩くのが大変でした。毎年全校生徒を集めた有名人の講演会がありましたが、当時テレビで活躍していた渡辺紳一郎さんが土砂降りの雨の中来られた時に、人生で最大の失敗は問われ、今日来るときに、穴に膝までつかり、ずぶぬれになったことと、応じていたのを現在でも覚えています。

国立には、桐朋のほか都立国立高校、都立五商、国立音大付属高校などがあり、条例で学園都市と指定されていました。したがって飲み屋、パチンコ店などはなく、一般の商店も数えるほどでいたって閑散とした寂しい街でした。商店も喫茶店・エピキュール、増田書店、やぶ蕎麦、などがありましたが、中学時代、バスケの練習帰りに寄った、「やぶ」のもり・かけが17円の時代でした

桐朋は木造校舎でしたが、校宅があり、住宅難の時代なので、校宅目当てに若い優秀な先生が集まったようです。当時は公立が優勢で、私立でも国分寺にあった明星中学の方が上でしたが、若い熱心な先生が集まった桐朋が伸び、その後都内でも有数の進学校になった。木造校舎は古かったですが、校庭は広く、全校で草取りをしたあと、幾つもの山を作って燃やし、大きな火の手と煙が上った風景、今でも目に焼き付いている。南武線方面は畑が続き、谷保天神まで、大きな建物が全くなかった。

一橋大学も未整備で、奥にある陸上競技場の周囲を囲む針金鉄線がいつも穴が開いていたので下校時の近道となり、よく利用した。時計台の前の池も、常に濁り、釣りをしたという猛者もいた。大学の体育館も、ダブルデイヴィジョンという寸詰まりの変則体育館で、大学卒業後も長く存在していた。

桐朋の体育館は一面だが正規の広さがあり、中学時代、練習試合付きで一橋大にコートを貸すことが時々あった。大学合格時、新人勧誘で、坊主頭の中学生だった小生を思い出した先輩がいて、バスケット部に来いと誘われ、入部したが、それ以来、現在までバスケットとの縁が続いている。

バスケットは、中学に入ったときに、同じ小学校から来たA君と、背が伸びるようにと願って入部したが、ともに上手くいかなかった。コーチの先生は、戦後の文理科大学のキャプテンを務め、女子バスケットの名門、浦和一女から転校してきた本格的なかたで、身をもって基礎を教えてくれた良きコーチでしたが、2年ほどして男子校に辟易してか国分寺の東京経済大学のコーチに転身された。中学時代は先輩がいたが、高校時代は受験勉強を始める高校2年半ばまで、中・高全体の面倒を見ていた。体育館では器械体操部と一緒に、ヘルシンキオリンピックに出場した金子朋友先生が練習するのをよく見ていた。先生は後に筑波大の学長になられた。バスケット部はコーチの先生不在で、“不良のたまり”と酷評されるときもあったと聞いた。

大学のバスケットも、今思うとひどかった。メンバーが少なく、未経験者がほとんどで、練習後の麻雀のメンバーを集めるために、練習に来るといふ先輩が存在したほど。春合宿は新生がいないので、プレーヤーより、けがで休む人の方が多く、まとまった練習がほとんどできなかった。合宿所は、中学生の時に潜り込んでいた陸上競技場のスタンドにあった集会所、寝具は無いので、各自、家から電車で運んだ。食事は学食で、飲みに出ることなど店が無いので全くなかった。練習前の準備体操がラジオ体操のみという時代、いつまで続いたのか定かではありませんが、弱い時代が長かったのでそれなりに続いたよう。

事務局

< 投稿 > を歓迎します

天地シニアネットワーク・テーブル・518号

発行：2021年4月16日

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-

1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：tentisenior06@gmail.com

電話 話